

第5回フードテックワーキンググループ（議事概要）

日時：令和8年6月29日（月）10：30～12：00

場所：農林水産省第1特別会議室

議事：

1. 植物工場、陸上養殖、食品機械、新規食品の官民投資ロードマップについて【報告】
2. フードテックワーキンググループのとりまとめについて
3. 意見交換

出席者：別紙

【議事】

1. 植物工場、陸上養殖、食品機械及び新規食品の官民投資ロードマップ(案)について
＜事務局から資料1～4に基づき説明。＞
2. フードテックワーキンググループのとりまとめについて
＜事務局から資料5に基づき説明。＞
3. 意見交換
＜各ロードマップ（案）及びとりまとめ資料（案）について、意見交換を実施。＞

【開会挨拶】

○根本副大臣

- ・ 今回で5回目となるが、本ワーキングとしても最終的なとりまとめを行いたい。
- ・ 植物工場ユニットの担当として、ヒアリングを通じて技術としては大変素晴らしいものがある一方で、それを海外でどう稼げるビジネスとして展開していくのかが大きな課題だと感じている。
- ・ 今後、ロードマップに基づくフードテック分野の官民投資が促進され、着実な成果に結びつくよう、率直かつ建設的なご意見をいただけますよう、よろしくお願いします。

【官民投資ロードマップ（案）について】

- ・ 実際に投資をしてくれるかが大事で、示された官民投資額について実効性を高めるために、今回まとめた政策がどう機能していくか結びつけて考える必要。
- ・ 官民投資額は示されたが、国の投資をいくら出すか決まってくると、民間も動きやすい。

【フードテックワーキンググループのとりまとめ（案）について】

- ・ とりまとめのタイトルとして、食料供給力向上だけでなく、世界の食の社会課題を日本の技術と食文化で解決していくとすれば、投資が意義深くなる。
- ・ 一企業の課題ではなく、日本のフードテック全体が死の谷を越えられるかという認識のもと、農林水産省として取組を継続し、諦めない意思を明確にすべき。
- ・ 投資額が大きい植物工場、陸上養殖について、投資意欲があり日本の技術に関心がある地域は中東だと思う。さらに、一部アフリカ地域ではヨーロッパ市場への展開も期待でき、米国とは異なる戦略的価値も踏まえ、中東・アフリカ地域は今後検討を進めていくべき。
- ・ フードテック 4 領域の連携、横ぐしの取組について、「群」による海外展開だけでなく、国内の取組でも一緒に取り組むといった記述があると良い。
- ・ 講じるべき政策パッケージのタイムラインについて、スタートアップの成長を実現する前提で政策の連続性を踏まえれば、事業性評価等であれば 2030 年、実証支援は 2035 年までで終わるとせず、2040 年まで進めると見える方がプレイヤー側も安心できて良い。
- ・ 当面取り組むべき事項を整理しているが、今後 3 年程度がスタートとして重要であり、講じるべき政策パッケージの項目ともう少し整合するよう、必要なものを入れてほしい。
- ・ とりまとめに当たり、技術面だけでなく、社会のビジョンに近い波及効果や、社会がどう変わっていくかとか、そういったイメージがあるとよい。

→ 修正については座長一任となった。

【今後のフードテックの推進について】

- ・ 国際連携について、日本食や日系企業と連携した構築だけでなく、海外の現地産業のネットワークに日本企業が入り込めるような仕組みづくりを後押しする政策があるとよい。
- ・ 農水省だけでできることは少ないので、他省庁のプログラムで対応する部分を示せば、企業も積極的にフードテックに応募し、様々な分野でフードテックを支える体制ができる。例えば、投資のピークルやスタートアップのインキュベーションなど、他の分野と一緒にやっていけると思う。
- ・ 今までモノを買うには検索の時代だったが、これからは AI に相談して買う時代になる。これまではおいしさや価格、入手しやすいかどうかといったあたりが購入の基準だったが、AI に相談すると、そういったことに加えて「環境にいい」とか「自分の体に合う」とか「地元産のものである」とか、多様な条件に合うものを提示してくれるようになり、購買行動が変わってくる。フードテックスタートアップが目指している健康にもよい、環境にもよい、文化的にもよ

いといった一石N鳥のものがAIによって提案してもらえる可能性もあり、フードテックを進めるチャンスでもある。生活者がどのようなものに価値を感じるのかというデータ分析も大切。

- ・ 海外展開については、展示会に行って一社一社の商談するだけだと、群がバラバラになるので、どうしたら2国間でプラットフォームを作れるかなど、展示会主催者や関係団体等と協議するといった、群と群で交渉できる仕組みを作るのがよい。展示会に出すだけでなく、現地のマーケットに入り込んで、現地のプレイヤーと対話ができる関係づくりの場を用意するというのは、国の役割として重要。
- ・ 海外展開での市場調査について、調査会社による全体データも必要だが、事業者自らマーケットを見たいというニーズもあるので、そういった支援もあるとよい。
- ・ 今後、ロードマップが動き出した後の効果検証や施策自体の有効性の確認について、ロードマップの検討に参画した我々にも責任があると思っている。継続的なフォローのありかたも検討いただきたい。
- ・ 民間から一番投資されるのは、緊迫度が高いかワクワクするマーケット。食は当たり前で緊迫度が高いと言われても分かりづらく、食料安全保障や経済安全保障とどうつなげるか、また、お金を出さなきゃねとなるようなワクワクする世界を示せるとフードテックが注目されると思う。
- ・ それぞれの政策について、誰が担当するのか、どういう体制でやっていくかが重要な課題。農林水産省において、事業者等から見て誰と仕事をすればいいのか明確になる体制づくりが必要。
- ・ 経済同友会で行われた会員アンケートで、戦略17分野の中で世界と戦っていける勝ち筋のある産業として、フードテックが3番目（1位がコンテンツ、2位がAI・半導体）となっており、日本にしかない強みと世界での成長の余地があると期待されていると思う。
- ・ フードテックは農林水産業を高付加価値なものに転換するトリガーになる。そのためには、製品単体で売のではなくソフト・ハード、知財もセットで売るソリューション化と、おいしいだけでなくプラスアルファの部分でのプロダクトのブランド化の二つがポイント。
- ・ ユーザー側のデータを取り込みながらソリューションを作ることが重要かつ強みとなるため、予算や体制など政策推進に当たっては、供給側だけでなく需要側も取り込んで一体的に推進できる枠組みが重要。

第5回 フードテックワーキンググループ
出席者名簿

【座長】

農林水産大臣	鈴木 憲和
--------	-------

【座長代理】

農林水産副大臣	根本 幸典
農林水産大臣政務官	広瀬 建

【構成員】

Beyond Next Ventures 株式会社 パートナー	有馬 暁澄
株式会社 UnlocX 取締役	岡田 亜希子
一般社団法人 AgVenture Lab 会長	荻野 浩輝
株式会社メロス 代表取締役	小倉 千沙
株式会社三菱総合研究所 シニアマネージャー	久保田 孝英
特定非営利活動法人植物工場研究会 理事長	林 絵理
デロイトトーマツグループ 執行役	松江 英夫

【事務局】

農林水産省 大臣官房技術総括審議官	堺田 輝也
政策課 企画官	西澤 慧
政策課技術政策室長	阿部 尚人
新事業・食品産業政策課長	石田 大喜
新事業・食品産業政策課	
新事業・国際グループ長	朝比奈 祥子
農産局 園芸作物課 野菜調整官	倉員 俊雄
農林水産技術会議事務局 研究総務官	東野 昭浩
研究調整課長	羽子田 知子
研究開発官	龍澤 直樹
水産庁 栽培養殖課長	藤田 晋吾
経済産業省 イノベーション・環境局 総務課 イノベーション推進政策企画室 室長	井上 俊樹